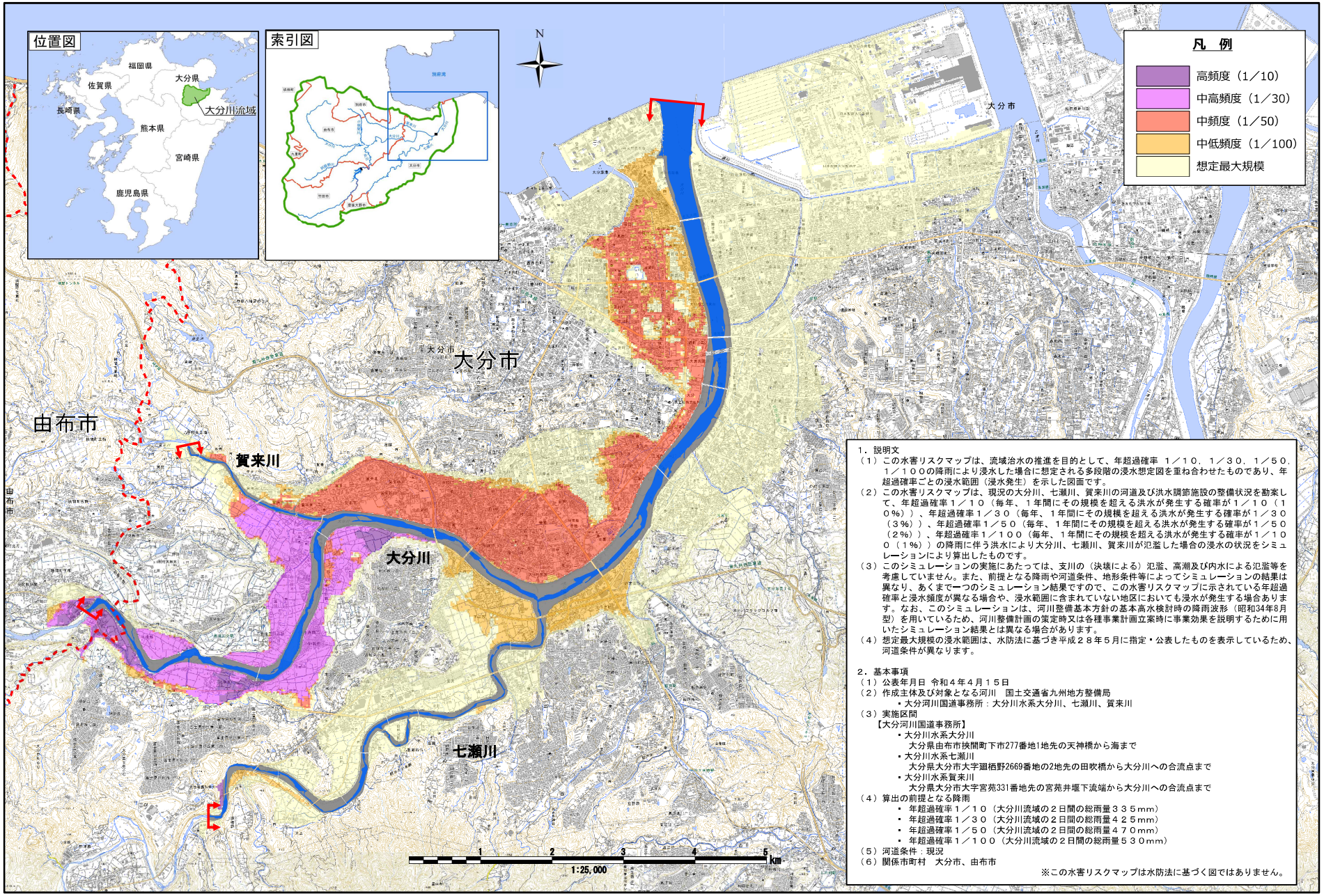
大分川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ
【現況河道】

浸水が想定される範囲を表示



１．説明文

（１）この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率 １／１０，１／３０，１／５０，１／１００の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。

（２）この水害リスクマップは、現況の大分川、七瀬川、賀来川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率１／１０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１０（１０％））、年超過確率１／３０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／３０（３％））、年超過確率１／５０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／５０（２％））、年超過確率１／１００（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１００（１％））の降雨に伴う洪水により大分川、七瀬川、賀来川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

（３）このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合あります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和34年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

（４）想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成２８年５月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

２．基本事項

（１）公表年月日 令和４年４月１５日

（２）作成主体及び対象となる河川　国土交通省九州地方整備局
- 大分河川国道事務所：大分川水系大分川、七瀬川、賀来川

（３）実施区間

【大分河川国道事務所】
- 大分川水系大分川
  大分県由布市挟間町下市277番地1地先の天神橋から海まで
- 大分川水系七瀬川
  大分県大分市大字廻栖野2669番地の2地先の田吹橋から大分川への合流点まで
- 大分川水系賀来川
  大分県大分市大字宮苑331番地先の宮苑井堰下流端から大分川への合流点まで

（４）算出の前提となる降雨
- 年超過確率１／１０（大分川流域の２日間の総雨量３３５mm）
- 年超過確率１／３０（大分川流域の２日間の総雨量４２５mm）
- 年超過確率１／５０（大分川流域の２日間の総雨量４７０mm）
- 年超過確率１／１００（大分川流域の２日間の総雨量５３０mm）

（５）河道条件：現況

（６）関係市町村　大分市、由布市

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

「国土地理院の電子地形図25000『別府東部』『家島』『大分』『鶴崎』『野津原』『戸次本町』を掲載」
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 1」